

日本近代文学に描かれた職業の研究-石川啄木を中心に-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学人文科学研究所 公開日: 2013-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池田, 功 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/14348

日本近代文学に描かれた職業の研究
— 石川啄木を中心に —

Reserch of the occupation drawn on Japan
modern literature centered on Takuboku Ishikawa

池田 功

IKEDA Isao

日本近代文学に描かれた職業の研究として、「どうにもこうにもやりきれない 国木田独歩『窮死』」と、「新聞記者の世界 石川啄木『我等の一団と彼』」の2点の論文にまとめ、それを池田功・上田博編『明治の職業往来名作に描かれた明治人の生活』（世界思想社・2007年3月10月）に収録し刊行した。以下にその内容を記す。

1、「どうにもこうにもやりきれない 国木田独歩『窮死』」（400字詰め原稿用紙30枚）

国木田独歩は明治39年に雑誌の発行を事業とした独歩社を破産させ、窮地に陥っていた。そういう窮状の体験が下層労働者に目をむけさせ、「窮死」（明治40年）を執筆させる背景となっている。

「窮死」の主人公の文公は、立ちん坊（坂の下にいて荷車などを押してお金をもらう仕事）をやっているが、ほとんどお金にはならない。その上結核を患っている。同じ様な貧しい労働者に助けられながら、かろうじて生きているが、結局最後は自殺してしまう。

この作品には幾種類かの低賃金労働者が描かれてお

り、その職業を分析した。資料としては、松原岩五郎『最暗黒の東京』（明治26年）、横山源之助『日本之下層社会』（明治32年）などの同時代の資料や、立花雄一『明治下層記録文学』、松田良一『近代日本職業事典』などが大いに役立った。

低賃金労働者の中でも最も恵まれないのは「立ちん坊」であり、ほとんどが野宿で、食べるのも精一杯の生活であった。それより少し良いのが「土方」である。これは親方の下で日稼ぎ人足となった。また当時人力車夫も多く、明治19年には6万人あまりいたというが、「おかかえ」「やど」「ばん」「もうろう」などというような種類と賃金格差があった。

さらにこのような下層労働者達が生み出されてくるルートを調査した。一番多いのは旧幕時代の人口の8割を占めていた「農民」からである。明治6年の地租改正により、税金の金納が収められなくなり、土地を失って都市に出て賃金労働者になった。また「旧武士から」のルートもあり、明治9年の秩禄処分により下級武士は食い詰め没落していった。さらに「手工業の職人層」からのルートであり、座・株仲間の特権を失って賃金労働者になっていった。もっとも「窮死」の主人公はこれ以外であり、「浮浪者・囚人」のルートと考えられる。

これらのルートから都市に集まった低賃金労働者達は、下谷万年町、四谷鮫ガ橋などの三大スラム街と呼ばれたところで生活していた。そのようなことをこの論文では「窮死」を分析しながら論じた。

2、「新聞記者の誕生 石川啄木『我等の一団と彼』（400字詰め原稿用紙30枚）

啄木の「我等の一団と彼」は、東京の新聞社の社会部を舞台にし、「我等の一団」である主人公たちの記者に、不思議な影を持つ「彼」である高橋彦太郎が入ってきて時代や社会や個人の苦悩についての会話をしてく作品である。

今でこそ、新聞記者はエリートとしてのあこがれの職業であるが、しかし、明治時代においてはまだ文士崩れの人間や、政治家や外交官などになるためのその前の職業という意識があり、高い価値観を持たれることは少なかった。さらに社会部は「軟派」とも言われた時代であり、「硬派」記者からは軽く見られていた。高橋はそのような中にあり、立身出世を夢見るがゆえに苦悩する男として描かれている。

もっとも新聞記者としての誇りを持った人達もいた。朝日新聞社においては佐藤北江、池辺三山、渋川玄耳などであり、その人達の経歴なども調べた。さらに啄木自身が、函館日日新聞社遊軍記者、北門新報社校正係、小樽日報社記者、釧路新聞社記者、そして朝日新聞社

校正係を経験しており、有能なジャーナリストでもあった。26年2ヶ月の短い人生の中で約3年間に及ぶ新聞社勤務は、啄木に文章力を鍛えさせ、常に情報の最前線にいて知的な刺激をかきたてる大きな役割を果たした。明治43年に起こった、幸徳秋水らのいわゆる大逆事件に際しても敏感に反応し、『日本無政府主義者隠謀事件経過及び附帯現象』などにまとめることを可能にさせたのであった。

以上のように2006年度は、明治時代の低賃金労働者の職業と、ジャーナリズムの職業とを作品を絡めながら分析した。